

質問

母ががんの治療で入院した時、母の趣味の編み物を作業療法士と一緒にする姿が生き生きとしていて、印象に残りました。がんの治療における作業療法士の仕事を教えてください。

作業療法士



山口 佳子
徳島大学病院リハビリテーション部
作業療法士

回答

がん治療中の家族は心配が多いと思います。少しでも元気な姿が見られると心が安らぎますね。

がんのリハビリは、リハビリ専門職である作業療法士、理学療法士、言語聴覚士をはじめ、医師、看護師らさまざまな職種の治療スタッフが関わります。その中で作業療法士は、活動(作業)を通して、身体機能と精神機能の両方に働きかけ、体と心を元気にするためのリハビリを行います。

質問のケースは、趣味であった編み物をすることで自分らしさを取り戻すことができ、心が元気になっていったのではないですか。またそれだけでなく手を使うのは、手の機能の改善・維持がで

自分らしさを取り戻す



れ、自信が戻ってきました。このように元の生活に関連した活動を取り戻すことが体と心の回復につながるのです。

がん治療では、さまざまな状態が起き得ます。作業療法士は、患者がその人らしく生きていくためにはどうすればいいかを一緒に考えます。これまでの生活ぶりや患者の人柄、家族の意向などを踏まえ、その時々心身機能や活動能力などを専門的な立場から判断します。そして、少しでも納

き、脳の活性化につながります。また座って作業をすることで、普段の生活でも座って過ごせる時間が長くなり、心身の機能が低下するのを予防します。さらに作品が仕上がることで達成感が得ら



リハビリを行う患者④と作業療法士
—徳島大学病院

得のいく生活に近づけるよう目標を立て、目標を患者と共有しながらリハビリに取り組みます。編み物のような作業活動だけでなく、日常生活で必要な動作の練習や福祉用具の選定などもします。また痛みや倦怠感が強い人には、楽な姿勢を一緒に探し、気分転換になる活動を行います。

がんのリハビリには予防的リハビリがあり、手術や治療の過程で予測される機能や能力の低下に対して、他職種と連携を取りつつ手術前から運動療法などを行う場合もあります。

作業療法士は、患者の生き方を尊重しながら生活の質の向上に向け、患者の状態や、がんの治療過程に柔軟に対応した支援をしています。がん治療中のリハビリで何か困っていることがある人はリハビリ専門職の作業療法士、理学療法士、言語聴覚士に気軽に相談してください。

(第4土曜掲載)

患者の状態把握し支援

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088(634)6442〉



(平日午前8時半から午後5時まで)へ。